

# 市内高校の活性化について

## 一般質問



中右 憲利 議員  
(21 政会)

### (播磨農業高校)

**問** 加西市と播磨農高のコラボ事業「はりまのちっちゃな台所」、その概要について。

**答** 北条旧市街地の空き店舗を利用したプロジェクトで、今後経営者を選定し、播磨農高生等と月1回ワークショップを開き、店舗の内装、外装、メニュー等と一緒に考える予定です。また、播磨農高の野菜、ジャム等の加工品の取り扱いも考えています。

**問** 経営者、播磨農高、加西市、地域のメリットは。

**答** 経営者は、出店費用の軽減と播磨農高ブランドの活用。播磨農高は、販売窓口の常設化、播磨農高ブランドの広報の場及び生徒の実習の場の確保。加西市、地域には地元高校のPR、観光情報発信の拠点、旧市街地活性化の呼び水としての効果等です。

### (北条高校)

**問** アフタースクールゼミについて。

**答** 平成30年度から3年間は、受験コースは引き続き河合塾に、基礎コースは兵教大の学生にお願いします。アフタースクールゼミ事業は、北条高校支援の柱として今後も継続していく必要があると考えています。

**問** 国際交流事業について。

**答** 平成27年からオーストラリアのスワン・クリスチャン・カレッジと交流しています。今年度から、よりハイレベルな英語力の習得を目指し、少人数参加による短期留学的な国際交流事業を新たに実施しています。

**問** 人間創造コースについて。

**答** このコースには多様な学習機会が設けられています。

①英語のコミュニケーション能力を高める取り組み。②個別指導など教科力を高める取り組み。③大学見学など学ぶ意欲を高める取り組み。④主体的な課題解決力を高める取り組み。1年生で学びの基礎を身に付け、2年生で様々な学びを体験し、3年生で学びを進路実現につなげるカリキュラムが組まれています。

# 教育問題等について

## 一般質問



織部 徹 議員  
(21 政会)

**問** 平成9年に中学生による須磨連続殺傷事件があり、県教委は、翌年から中学2年生を対象に1週間の体験学習としてトライやる・ウィークを実施しました。本来は職場体験ではなく、心の教育の事業です。中学2年生は毎年変わるので、新鮮だと思うが、受け入れる事業者や施設としては、現場の負担が大きく、維持が難しく、原点が忘れられ、イベント化しているという声もあるようです。周りの人たちも新鮮さが薄れ

てきて、声かけなども少なくなってきたように思われますが、県としてはリニューアルした事業は考えられていないのかお聞きます。

**答** トライやる・ウィークは、20年を迎え、子供たちの社会的、職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育むキャリア教育としても評価されています。しかし、マンネリ化が懸念されないわけではありません。今後とも県の方針に従って、心の教育として再確認し、事業を充実していきたいと考えています。

**問** 大教大附属池田小学校内で児童が8人殺害されるという事件などがあり、加西市教委は平成14年に「ワッシュョイスクール」という事業を計画し、平成15年7月17日に北条東小学校を

皮切りに、15年度中に全小学校で実施されました。実施以来15年がたち、ワッシュョイスクールの参加人数が減り、運営が難しい学校が出てきていないのかお聞きます。

**答** ワッシュョイスクールについては、11校で登録人数は6人から78人と随分差がありますが、各校独自の取り組みの中で活動いただいております。人数はあまり問題視していません。ただ、協力員の高齢化等に伴い、入れかえも必要となっており、負担軽減や活動について年度末等を中心に運営会議をしていただき、続けてやっていただいております。

### ■その他の質問項目

・旧天下溝の水害対策について